

本日、ウクライナ支援特別研修コースを修了される National Aerospace University, Kharkiv Aviation Institute をはじめとする 5 大学 22 名の皆さん、まことにおめでとうございます。激しい戦火に負けず、皆さんは 2 カ月半に渡り、本コースが提供する授業を受講されてきました。その弛まぬ努力に対し、心から敬意を表します。

ロシアの一方的な侵攻から 5 カ月近くが経過しましたが、未だ、母国各地で無差別爆撃は続き、日々報道される衝撃的な光景に、私たちは心を痛めています。

オンラインでの授業配信は、「工学系先端技術に関する講義を聞きたい」という皆様方のご希望に工学域教職員一同が感銘を受け、その思いに応えたいという気持ちからスタートしました。幸い我々は、他大学に授業コンテンツを配信する最新システムを構築していました。さらにコンピュータ理工学など、複数の工学系分野において海外の大学との大学院ダブルディグリープログラムを実施するなど、教育プログラムの国際化の充実に力を注いできた実績があり、その資産を利活用することにより、直ちに本プログラムを立ち上げることができました。今回は、最先端の人工知能をはじめ、7 つの情報工学科目を提供することができました。

また、本学は国際教育の一環として、日本人学生と留学生がともに言語や文化について学べる全学共通教育科目を英語で開講しており、今回はその一つ Language and Communication across Cultures コースにおいて、H. S. Skovoroda Kharkiv National Pedagogical University の学生が本学の日本人学生や留学生と一緒にオンラインで受講し、グループ討論等を通して、相互の文化をレスペクトし、理解することの大切さを学びました。

理不尽な侵攻によって、どんなに街が壊され人々が傷ついても、若者が何かを学ぼうとする真摯な精神まで啄むことは決してできません。皆さんたちがその証明です。祖国を再建する際に、このコースで学んだ何かが少しでも役立つことが

あれば、私たちにとっては望外の喜びです。

まだ、厳しい状況は続くと思われていますが、どうか、この精神を忘れず、苦難を乗り越えてください。

未来を担う若者の誰もが安心して教育が受けられる日々が一刻も早く母国に戻ることを切に願っております。今後も私たちにお手伝いできることがあれば、どうぞ遠慮なく申し出てください。

Слава Україні! (ウクライナに栄光あれ!)

令和 4 年 7 月 19 日

国立大学法人山梨大学

学長 島田 眞路